



中五島の教会

上五島・長崎巡礼⑱

今、書いている上五島・長崎巡礼は昨年八月に旅したもので、早や半年近くが過ぎた。余りに長くなったので締めくくりを書く前にもう一度、上五島に行こうと思ったが、冬の五島灘は荒れることが多く、ツアーも企画されない。

年末に下松教会の韓国人シスターが上五島巡礼に行ったが、やはり天候に恵まれず、帰りは船が欠航し、一日遅れて帰って来た。この冬の日本海側の天候は特に悪い。

やっとな希望に近い「上五島二十教会巡り」のツアーを見つけて申し込んだが、参加者が少ないからと中止になった。仕方なく四泊五日の八月の巡礼だけでまともに入る。日曜日のミサは桐教会

会に行つた。今は若松島以北を上五島、奈留島以南を下五島と呼ぶが、教会がたくさん建てられた禁教令撤廃後の明治時代は中通島南部と若松島辺りを「中五島」と呼んだ。明治三十年、中五島に最初に建てられたのが桐教会である。

桐教会は主任教会で「名鏡の教会」として有名なかの浦教会と大浦教会が巡回教会。主任司祭一人で三教会を司牧するのだから大変である。

土曜日夕方が大浦教会、日曜日の朝六時から中ノ浦教会、朝九時から桐教会と三回のミサを行う。聖書の朗読箇所は同じところであり、当然ながら説教も同じことを三回しなければならぬ。私もアナウンサー出身なので、同じことを同じようにエネルギーを込めて話す困難がよくわかる。

まだ若い浅田神父は佐世保の黒島出身である。神父から聞くまで全く知らなかったが、本州と平戸島の間にある九十九島で最も大きな黒島も隠れキリシタンの島だったのである。

五島列島への開拓移民のほとんどが隠れキリシタンであったことはすでにふれた。しかし開拓移民として現地に着くと、聞いた話とは大違い、人が住めるような所ではない。それでも隠れキリシタンたちは信仰を守るからと極貧生活に耐えて島に定住した。

しかし、一部の人はちには五島を離れ、本州に近い黒島に移り住んで、いつしか黒島も隠れキリシタンの島になった。現在、島民六百五十人のうち八割が隠れキリシタンの末裔だという。



丘の上にたつ桐教会

黒島で生まれ育った浅田神父は中学生になる時、島を離れ、長崎の小神学校に入學した。ご本人は「口減らしですよ」と笑うが、一緒に旅をした五島育ちの近藤氏は「優秀な子どもが選ばれて小神学校に送られた」という。

横道にそれたが、桐教会のミサで一番感じ

たことは、子どもの侍者がいることである。浅田神父は以前に比べると少なくなったというが、我が下松教会などは一人もいない。しかも、ミサの手伝いをする侍者の奉仕をすることに子どもなりに誇りを持っているのが伝わって来る。

こうして信仰が伝承され、浅田神父のような人が存在するのだと痛感した。
（元山口放送取締役ラジオ局長）



ミサを手伝う子どもの侍者